

# ～常任委員会の審査より～

## 総務文教厚生委員会

### 今定例会の審査結果

今定例会では補正予算3件と、条例改正3件、陳情1件について担当課より詳細な説明と意見を求め慎重に審査しました。「生活保護基準の引き下げはしないことなど国に意見書提出を求める陳情書」については、不採択としました。

### 議案第78号「勝山市教育会館耐震補強・改修工事（建築工事）請負契約の変更について」の撤回について

このことについては、改修工事に伴い予定外の作業の発生などで費用がかさむことから、契約金額を955万8000円増額の2億905万8000円に変更契約するというものですが、理事者より「今後も工事内容の変更が予想され、工事費用の金額を再精査したい」として、議案撤回請求があり、これを承認しました。

### 「（仮称）北谷町コミュニティセンター」の建設について

この事業は、北谷地区活性化及び各地区の特色ある地域づくり基金の北谷地区活性化・再生事業補助金を活用し、まちづくりの核となる「拠点施設」の整

備として、物販・交流・生涯学習などの多機能を有する「（仮称）北谷町コミュニティセンター」を河合地区に建設し平成26年度末の完成を目指しているとの説明がありました。

### 勝山恐竜クロカンマラソンについて

毎年10月に開催されている勝山恐竜クロカンマラソンは、クマの出没により、大会中止やコースの変更などの支障が出ています。そこで平成25年開催の第9回大会より6月開催に変更するとの説明があり、委員会では開催日変更の周知を徹底し、運営の充実を図るよう求めました。

### 現地調査について

当委員会では、勝山の歴史・遺産などの展示を計画している勝山城博物館と、教育会館の耐震補強・改修工事の進捗状況について現地調査を行いました。

### 行政視察

当委員会では、10月に行政視察を実施し、熊本県水俣市、阿蘇市を訪れました。

### ○水俣市の取り組み

水俣市は、日本初の環境モデル都市宣言をし、昨年、国の環境モデル都市に認定されました。環境への取り組みについては、

水俣病を教訓にした、環境保全の取り組み事例や、環境モデル都市宣言から認定までの経緯、認定を受けてからのアクションプランについて詳細に説明を受けました。

その中で、地域住民が主体的に進める「地域の環境は地域で守る」地区環境自治体協議協定制度は、「村まるごと生活博物館」としてエコミュージアムとエコロジーが合体した先進的な取り組みでありました。

### ○阿蘇市の取り組み

阿蘇市では、ASO田園空間博物館事業と阿蘇ジオパークの取り組みについて視察を行いました。

ASO田園空間博物館事業は、阿蘇市全体を屋根の無い博物館にたとえ、自然と人々が織り成してきた有形・無形の地域資源（サテライト）を展示物として保全活用しようという取り組み



ジオガイドによる案内

で勝山市のエコミュージアムと繋がるものがあります。また「田園空間整備事業」と「阿蘇駅周辺再開発事業」を組み合わせて活用した、ASO田園空間博物館総合案内所施設を拠点として、多様な活動を展開しており、運営は住民主体の任意団体です。この施設での物販は、年間入込客数1,700万人を背景とし、年間3億数千万円の売り上げがあり、平成23年度は市に1,800万円を寄付するまでに成長しているとの事です。

阿蘇ジオパークは、世界に誇る雄大なスケールを「世界ジオパーク」に申請中です。その取り組みは、ジオガイドの育成、案内看板の統一など、これからの勝山市のお手本であり、目標とするものであります。

両市の取り組みは、当市と共通することが多く、参考になることがあり、活発な意見交換が行われました。



水俣市での視察